

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを 支えていくサービスとして、事業所独自の理 念を作り上げている。	当法人の基本理念である「地域への還元」の元に、地域住民と歩 調を合わせながら地域に根差したサービス事業を展開している。		
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実 践に向けて日々取り組んでいる。	法人の理念に基づき、日常生活支援を行っている。ケース会議 等における利用者へのケア視点等もそこに基づく考え方となるよ うにしている。	○	職員会議や学習会、ケース会議を通じて職員一人一人が法人理念を理解 し、日々の利用者との関わりに生かしていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続け ることを大切にしたい理念を、家族や地域の 人々に理解してもらえるよう取り組んでい る。	地域住民に対して、設置前から事業所の理念について説明して いる。地域運営推進会議を通じて、はるかを利用されている方の 理解や協力を依頼している又、交流イベント等を企画し、施設を 開放することで、広く地域の方に知って頂いている。その中で地域 の皆様に理解や理念を伝えていけるよう行っている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声 をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえる ような日常的なつきあいができるように努め ている。	日常的に挨拶をしたり、外での会話を楽しんでいる。又、お花や、 物を届けて下さったり、施設の年間行事にも参加して頂き、積極 的に交流をしています。開設以来、町内会の会合や、会議等に地 域交流スペースを利用して頂いています。	○	今後も、地域交流スペースを生かしながら、気軽に立ち寄れる場所や会合 の場所として広く利用して頂きたい。また交流スペースが空いていない場合 には、和室に椅子を持ってくる等、より活動できるよう配慮を続けていきた い。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員とし て、自治会、老人会、行事等、地域活動に 参加し、地元の人々と交流することに努め ている。	町内会に所属し、行事への参加・協力を行っている。(古紙回収・ 早朝の清掃等にも地域の一員として実施)地域の中学校行事に 参加している。はるかで行われる活動にも声を掛け、「敬老会」 「秋の感謝祭」などでは、町内会の多数の方が参加している。	○	地域の人にもはるか独自の行事に参加して頂けるようにはなってきたが、老 人会の方など、より多くの方が気軽に立ち寄って頂けるように企画等行っ ていきたい。又、町内会の方に留まらず、近隣の学生等、世代を超えて交流が 出来るよう企画等行っていきたい。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り組 んでいる。	2ヶ月に一回の地域運営推進会議を通じて、地域包括支援セン ターの方や町内会の方との情報交換を行いながら、施設の利用 者、地域の高齢者等の暮らしに役立つ事はないか話あっている。 結果、少しずつではあるが、地域の方々からの相談が増えてきて いる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全員で行った。又、日常的にもお互いに指摘しあい、日々改善に努めている。	○	外部評価を受けることで、自施設の運営を様々な角度から見直していきたい。
8	○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一回の地域運営推進会議で、情報交換を行っている。事業計画、防火活動、利用者の生活ぶりの活動報告を行っている。環境面での評価において、様々な意見を頂き、改善を行う事ができた。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市職員の研修や施設見学を受け入れたり、介護保険課にサービスに関する情報を頂いたり、連携を取っている。敬老会などの年間行事にも参加して頂いた。又、後見人に関する相談等を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	権利擁護や成年後見制度については、地域包括支援センター・市と協力しながら、準備を進めている。	○	左記の二つの制度に関わらず、制度という物に触れる、学ぶ機会が無いので、勉強会を計画し、理解に努めていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	法人全体の取り組みとして、事故防止委員会を設置しており、その中で虐待防止についても取り組んでいる。はるかでは、各フロアごとにチェックを行い改善を図っている。又、定期的に会議や学習会を開き、職員全体の意識を高め、虐待防止に努めている。	○	今後も学習会を定期的に行い、虐待防止に努めていきたい。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時には、運営規定や、重要事項説明書、個人情報保護等について、利用者、又、ご家族の方に十分な説明を行い、理解、納得、同意を頂いてからの契約を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からの意見、不満、苦情を解決すべく、月一回のチーム会議やケース会議を利用して、検討している。緊急を要する場合でも、早急に検討の場を設け、円滑な課題解決に努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族が日常の面会や行事にて来所された際には、ご本人を交えながら生活の様子を伝えている。突発的な病気に関しては、職員が対応させて頂き、結果などは早急にお伝えしている。面会などに来られなくとも、御本人の様子が分かるよう、今年4月より、3ヶ月に一回窓花新聞という定期的な便りを発行している。今後も継続して発行していきたい。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設設備やご本人に関する事での要望など、頂ける意見に関しては可能な限り対応させて頂いている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	フロア単独で小さくまとめるのではなく、全ての職員が事業所全体を一つと考え、日常から、定期的な会議を利用し、あらゆる事の情報の共有、意見交換、意識統一に務めている。	○	職員同士が意見を発信できる。又、受け入れる事の雰囲気作りに努め、利用者の方にとってより良い生活の場を提供できるよう努めて行く。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者、ご家族の様々な希望に沿えるよう、職員間で話し合いを持ち、実現できるよう柔軟な勤務調整を行っています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	馴染みの関係を無理に壊すような異動は行われていない。異動があっても、馴染みの関係が保てるよう配慮させて頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	育成目的の人事考課を取り入れ、個々に合った向上に努めている。又、職員全員が、施設内外の研修を順次受け、スキルアップするよう努めている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム研修・小規模多機能研修に積極的に参加しネットワーク作りをしている。その他ケアマネ協議会の主催の研修などにも参加している。又、管理者同士の日常的な意見交換も行っている。はるかでの行事の際には、他グループホームに声を掛け、利用者・職員の交流を図っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	法人全体として作業管理委員会を設置し、働きやすい環境を作る為、職場に対してのアンケート調査、親睦会等を行っている。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員の業務に対しての理解、共感出来るよう努める。職員の意見に耳を傾け、疑問点については、適切なアドバイスをを行う。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入所時にご本人とお話しし、またご家族とお話しし、不安なこと求めていることに近づけるように、心がけている。	○	入所してからよりもより本人とお話し、関わることで、ご本人の希望をかなえていける様にして行きたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入所時に御家族との話しの場を設け、不安な点を聞いたり、信頼関係を作るように心がけている。	○	ご家族の方が安心して頂ける様なサービス、信頼関係を作って行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者と御家族にとって大事な事を考え、その方々にあったサービスを提供する様に努めています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	他の利用者と馴染めるよう、職員が会話のキッカケを作ったり、利用者同士共通の話題などで親しみを持って頂く。利用者の気持ちを尊重し、可能な対応をさせて頂く。		利用者の方が安全で安心出来る空間作りに努めていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日々の中でどこかに出かけたり、はるかでの話題等を利用者さんと話したり楽しむことで、学んだり支えあう関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には、ご本人の生活状況をお伝えしたり相談する等しながら、職員と一緒にご本人の生活を支援して頂けるようにしている。食事会等の行事で、一緒に過ごす機会を作っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	御本人と関わることで、御家族への思い関係を把握し、手紙・電話連絡し、よりよい関係が築いていけるように心がけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会に規則を決めずに、馴染みの方や・どんな方でも気軽に来れる様に心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	孤立してしまいそうな時は職員が間に入り、皆さんが平等になるよう話しかけたり、サポートを行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用が終了したとしても、以後の本人の暮らしや御家族の介護に関する様々な不安などの相談を受ける、という役割を担っています。又、運営推進会議などで助言を頂いたり、自施設がより良いものとなるよう継続してお力添えを頂いています。		左記の事実を引き続き継続する事はもちろん、たとえ契約が終了したとしても必要な時に相談に乗らせて頂けるよう、利用されている期間から何事も伝えて頂けるような関係作りに努めていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとり生活スタイルが違うので、御本人と関わりを持ちながらその方の意向の把握に努めている。また状況を見ながら利用者さんが困難な場合は、ケース会議を行い検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時に一人一人の以前の暮らしを御家族に聞いたり、ご本人に聞くことで 以前の暮らしにより近づけるよう努めている。	○	これからも生活歴や情報を基に、ご本人がより良い環境・生活が出来るように努めていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている。	グループホームの職員だけでなく、他の階の職員・看護師と連携を取りながら、その方が生活して行ける様に情報交換を持っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者に担当を決めており、職員全体で意見交換を行い、ケース会議を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	基本的には介護計画書に添った援助を行っているが、ご本人の体調変化や入院によっての変動があった場合は、ケース会議を行い見直しを行っている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	それぞれ介護記録を毎日綴っている。職員同士が変則勤務のため、どんな職員でも漏れることのない様に職員連絡ノートを作成し、徹底を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	時間などにとらわれず、急遽の宿泊等に対応している。また病院等のご家族が対応出来ない時は、職員で対応している。	○	より利用者さんを把握出来る様に、今後も内容の検討が必要になってくる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	事業所内での出来事・行事・今後の方向性について等は月二回の地域運営推進会議や町内会の回覧板等で情報発信し、不定期ではあるが 事業所内にボランティアを招き交流に努めている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問歯科診療にて、歯の治療や義歯の調整、口腔ケア等を行っている。福祉用具の購入では、事業者と相談しながら行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センター協働のもと、権利擁護事業を利用するにあたっての援助内容の相談・アドバイスを頂き 現在支援に向けて活動中である。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医との情報の共有を強化し、利用者・家族が納得のもと、適切な医療を受けて頂けるよう支援している。	○	今後もかかりつけ医との関係を強化し、本人の体調・生活が安定しご家族に安心して頂けるよう支援して行きたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	近隣に関係医療機関があり、認知症に関する診断や治療・対応方法等について指示や助言を頂ける医師を確保している。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師がおり、全体の利用者とのコミュニケーションも図れ、日々の体調変化の報告・相談ができる環境にある。	○	今後も更に看護師と連携を取りながら日々の利用者の体調管理に気を配り、安心して日常生活を送って頂けるよう努める。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が急病・容態変化で医療機関を受診 また入院になった場合、御家族や医師と相談し、以後の対応を考え協働しながら治療できるよう努めている。入院時などは、ご家族に頼るだけではなく職員も立ち会い、治療方針等の情報を得ている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合の対応については、その都度話し合いを持っている。御家族と一緒に受診し、医師を交えた相談も行っている。その際の報告書などにより情報の共有を図っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化した場合の対応については、その都度話し合いを持っている。御家族と一緒に受診し、医師を交えた相談も行っている。その際の報告書などにより情報の共有を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	そのような事例はないが、相談があれば 御本人・御家族に理解、納得した住み替えができるように支援していきたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	日々の関わりの中で、言葉遣いや声かけには充分注意し常に利用者を尊重する気持ちを忘れず 支援に努めていく。	○	言葉遣いや接し方がふさわしくないと気付いた時は、職員間で注意しながら利用者が安心して暮らせるよう取り組んでいく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	一人ひとりの思いに傾聴し、希望に応えるよう努め、本人にできる限り わかりやすく話す事を心がけ、納得して頂けるよう支援している。	○	表情や態度から思いが汲み取れるように関わりを密にしていき、理解を深めていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの生活のペースを大切に心がけているが、集団の間でもあるので食事・洗濯・掃除については、ある程度の時間に合わせて生活して頂いている。	○	一人一人の生活スペースに配慮し、本人の意向に添った援助を行っていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	御本人の好み等を大切に、本人の希望があれば マニキュアや化粧等を行っている。理・美容については、なじみの店や美容室を利用する様努めている。	○	身だしなみチェック表を導入してはいるが、今後は個々の好み为重視出来る様 チェック表の使い方も工夫して行きたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	好き嫌い 又食べられない物を考慮し 代替え食を用意する等考慮している。一人ひとりが出来る部分で準備や片付け等に参加して頂いている。(テーブル拭き・おしぼりたたみ・茶碗の片付け等)	○	得意な料理を一緒に作ったり、皆で作りながら楽しんで食事が出来る環境を作って行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	好きな物や食べたい時に食べたい物を食べられる様量やおやつ等工夫している。	○	健康をそこなわない範囲で食べられない事がストレスにならないよう配慮し、食べることの楽しみを大切にしていきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人一人の排泄のリズムを把握し、声かけやトイレへお誘いをしている。心身の状態の変化に応じて下着や尿とりパット等見直し、工夫している。	○	本人に無理や負担をかけない様配慮しながら、可能な限りトイレで排泄出来る様支援してきたい。本人が傷つかない様な声掛け等配慮してきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人一人の入浴日は決めているが、その日の状況体調に合わせて入浴して頂いている。	○	本人に負担をかけない誘い方や入浴を今後も提供してきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	自室やホールで自由にくつろいだり、休息して頂ける様配慮している。自室では、一人一人の希望や状況に応じて、ベットまたは床に布団をひいて眠って頂いている。	○	体調の変化に合わせ負担のかからない状況で、休んで頂ける様工夫して行きたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	散歩・買い物等 外出出来る機会を増やして行ったり、皆で楽しめるゲーム・かるた・トランプを行いながら生活に張りが持てるよう配慮している。	○	皆で楽しめる様レクリエーション等の工夫をしていきたい。一人一人の役割を一人一人が生き生きとこなせる様にしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的にお金は所持されていないが、こちらでお預かりさせて頂いている方に関しては、出納帳への記入を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	季節にそったイベント参加・ドライブ等出かけたい時に、出かけられる環境を作って行っているが、一人一人の希望というよりは全員か何名かで一緒に出かける事が多い。	○	買い物や外出等 その方の希望時は即対応出来る様配慮して行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	月に一回 皆さんと遠出をしたり、天気の良い日はドライブ・公園等外出することを楽しんで頂いている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望により 御家族に電話をしたりしている。また 御家族・知人からの電話も自由に受けられる。	○	ご家族にも協力して頂きながら、いつでも電話し話しが出来る様今後も配慮して行きたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	御家族 友人等の面会は自由となっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的な勉強会を実施し、職員全員が身体拘束についての知識を持ち、身体拘束を行わないような工夫をしながら、利用者の安全・安心に努めている。又、目に見えない拘束(言葉づかい等)に対しても見落とさないよう注意を払っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	本人が希望した場合のみ居室の鍵をかける場合はあるが、日中は玄関・居室は使用していない。夜間のみ玄関に鍵をかけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中はその方の所在を確認するよう心がけ、声かけや一緒に行動する中で様子を把握し、夜間は定期的に見守りを行い 一人一人の状況の変化に対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ナイフ・はさみ等の刃物類はホームの物品を使用して頂いている。使用する時はその方の状況に応じ、危険がないよう配慮している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止委員会を中心に勉強会を行ったり、ひやりハットや事故防止対策に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急法や心肺蘇生法等赤十字救急隊から、指導を頂いている。緊急時の連絡・対応マニュアルに沿った対応をしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地域の方々にも呼びかけを行い 避難訓練も実施している。日頃より地域との関わりを大切にし、災害時等の協力をお願いしている。	○	特に夜間の場合は夜勤者しかいないため、急ぎを要する利用者の避難に関しては不安があるので、地域の方々や警察・消防の協力が得られる体制を作っていきたい。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	施設職員や協力病院医師と常にその方の状態を把握し、御家族に対してその都度様子や病状を伝え その時起こりうるリスクやリスクに対する対処法を検討し、説明させて頂いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝の体温・血圧測定を行うことにより、個人の体調を把握し 表情等に少しでも異変を感じたらバイタル測定し、様子を見ながら看護師と相談し、病院へ通院等を行っている。	○	今後も協力依頼をしていながら地域・消防警察等と体制を作っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医療機関・調剤薬局から出た薬は看護師が確認している。日付と朝・昼・夜にわけて袋に記載、個人の薬や副作用・注意点など職員間でも確認し服用して頂いている。	○	利用者がどんな状況で、どんな薬を服用しているのか職員で共有し、変化があった場合には迅速に対応していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便チェック表を必ずつけている。その方の排便リズムを知ると共に、水分摂取にも注意している。	○	毎日の排便チェック、確認を忘れず行っていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	朝・夕義歯をはずし洗浄・うがいを行い口腔内清潔を保持している。自力で出来る方は、職員が不足の部分を支援している。	○	今後も毎食後の口腔ケアを行っていきたいと思っています。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者の好みに合った食事・量を気にかけて提供している。水分量は個人差があり、摂りすぎてしまう方やそうでない方もいる為調整をさせて頂いている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防委員会を設置しており、定期的に会議を行い、その内容を各部署に提示し、感染予防を呼びかけている。又、ピューラックスの使用、ハイター使用しての消毒等、対策を行っている。タオルの個別化にも取り組んでいる。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食器や調理器具は毎回洗った上、食器洗浄器で洗浄している。冷蔵庫は不衛生にならないように残り物等の食器管理に注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関ドアはガラスの面が多い為、シールを貼り利用者がぶつからないように工夫している。また玄関の外にはベンチが置いてあり、くつろげるスペースがある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビング内に皆さんで作成した、貼り絵などを飾ったりしてその季節を感じられる工夫はしている。ソファなどの家具などで圧迫感がないように配慮したり、それに応じて模様替えを行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングでテレビを見たり、お話しをするスペースを確保しています。また、ゲーム類も用意し自由に過ごして頂いています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には それぞれの利用者が使い慣れた物等があり、本人と相談・ご家族と相談の上、利用者さん本人が過ごしやすい空間になっていると思われる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	掃除中、気温の上昇により リビング・居室の換気は行っていますが、利用者の気持ちや身体的負担も考慮し行っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者が動くと考えられる場所には、手すりがある。それ以外の場所には、テーブルやソファなど常に利用者さんが少しでもつかまって歩けるような、工夫をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	食器洗いやテーブル拭き・おしぼりたたみ・洗濯物干しやたたみ等負担のないように行ってもらっているが、常に職員が見守りや付添いを行い困ったことや混乱が起こらないように配慮を行っている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	窓から見える場所にプランターを置き、そのプランターに花を植え皆さんと一緒に育て、楽しんでもいただけるような工夫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんど掴んでいない	① 利用されるに際して、事前に本人・家族との希望や思いを聴取し、なるべく一人ひとりの生活リズムに合わせられるよう支援している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	① 業務としての職員の動きはあるものの、職員が意識をして利用者の隣に座ることをしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんどいない	② 利用者一人ひとりが自由に「思った時に思った行動」が出来るように配慮している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんどいない	② 全身状況の低下による影響から、変化してきている状況に対して、以前と変わらず何を楽しめて、楽しめないのかをしっかりと明確にできておらず、全ての入居者に対してはできていない。皆で楽しむ事に関しては、工夫した支援により、偏りの無い楽しい時間を過ごして頂いています。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんどいない	② 四季折々の季節を感じて頂けるような外出の企画を行っていると共に、限定した者にこだわらず、個人、集団、馴染みの関係など、枠に囚われず、普段の生活でもちょっとした買い物や外食を楽しめるよう配慮している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんどいない	① 医療機関との連携や定期受診の情報、看護師への相談等、利用者の体調の状態を把握しながら行っている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんどいない	② 様々な状況に対し、いち早く気づき対応できているため、利用者は安心して過ごせていると思う。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族 ② 家族の2／3くらい ③ 家族の1／3くらい ④ ほとんどできていない	② 送迎の際や泊まりの際、定期訪問等に必ずご家族の思いや不安がないか聞けるように配慮を行っている。その際に少しでも困った事があれば、すぐに訪問、連絡させて頂き、最良の改善方法を模索していく。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	③ 地域交流スペースを開放し、より多く地域の方々に利用して頂けるよう配慮している。

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ② 運営推進会議が家族・利用者との交流会などを開催しながら、少しずつではあるが理解者・応援者は増えていると思う。
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない ② 利用者と色々な活動を行いながら、職員自身も楽しんで働いていると思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない ① 日々の生活に楽しみや友達が出来たと喜ばれている方と接していると、ある程度満足されているのではないか？と思える。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない ② 利用者の表情や家族の思いを感じながら接していると、現在は概ね満足されているのではないか？と思える。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

- ・利用者一人ひとりの思いを大切にしながら、意欲的に行動出来たり、不安・寂しさを軽減出来るような関わりを行っている。
- ・日々の活動の中で、外出・おやつ作り等、出来るだけ取り入れながら皆で楽しめることを、継続的に行っている。
- ・口腔ケアの積極的な取り組み、協力して下さっている歯科医師、衛生士との定期的なカンファレンスを設け、利用者の日々の口腔ケアの実践に活かしている。